

『キャリアデザインフォーラム・プロジェクト』中間報告

Interim report of “Career Design Forum Project”

上岡由季・藤原慎太郎・丸谷佳嗣・足達龍彦・井篠和之・董石・中間有紀・丸山優子
・乾明紀

KAMIOKA Yuki, FUZUIWARA Shintaro, MARUTANI Yoshitsugu, ADACHI Tatsuhiko, IZASA
Kazuyuki, DONG Shi, NAKAMA Yuki, MARUYAMA Yuko, INUI Akinori
立命館大学

Ritsumeikan University

Key words: Career design, Imagination, Responsibility, Group work

キャリアデザインフォーラム

企画名称：「未来ソウゾウ企画」－あした
へつなぐ他者への支援とキャリア
デザイン－

日時：1月8日（日）12:30～18:00

場所：立命館大学

内容：パネルディスカッション・グ
ループワーク等

パネリスト：古賀茂明（元経済産業省大
臣官房付）・毛丹青（神戸国際大
学教授）

コーディネーター：乾明紀・上岡由季

参加対象：大学院生・学部生・社会人

目的

キャリアデザインフォーラム・プロジェクトは、大学院生を中心としたプロジェクトチームが、「対人援助活動」の実践として、人がより善いキャリアを描くことを支援する取組である。

私たち「キャリアデザインフォーラム（CDF）」プロジェクトチームは、一人ひとりがより善い人生を歩むために「想像力と責任」という言葉を軸にしながら、どのような企画を設定し提供するかを課題として活動している。

「すべては想像力の問題なのだ。僕らの責任は想像力の中から始まる。」これは村上春樹著『海辺のカフカ』に出てくる言葉である。私たちは何かを決断・選択するときには必ず想像をする。しかし、その想像はどこまで行き届いているだろうか。目先のことばかりにとらわれて、その先にある本当に大事なものを見失っていないだろうか。

目まぐるしく変わっていく世の中で、一人でこのことを考え行動することは容易ではない。そこで、少し立ち止まって「未来を想像し、責任を持って創造すること」をみんなで考える機会を提供することが私たちCDFの目的である。（文責：上岡）

方法

責任の伴った想像力について考える機会を

提供するという目的に沿って、CDF 当日のプログラムを構成している。プログラムの構成は、パネルディスカッション、グループワークの2部構成である。

1) パネルディスカッション

パネリストは古賀茂明氏、毛丹青氏を予定。パネリストのこれまでの経験を踏まえたディスカッションが、参加者に「想像力の伴った責任」とは何かを考える機会となる。

2) グループワーク

参加者が関心を持っている実社会での問題を題材にグループワークを行う。具体的には、個人である社会問題についての対策を考えたのち、グループでその問題についての対策を考える。社会問題に対して複数の目でメリット、デメリットを考える中で、参加者自身の人生の中での「想像力の伴った責任」のあり方考える機会とする。（文責：藤原）

実施体制とキャリア・アップ

大学院生を中心としたプロジェクトチームは、全体統括リーダーの下、メンバー 7名が「ゲスト・広報部（3名）」、「プログラム部（4名）」に分かれて活動している。前者はゲストとの交渉と参加者の募集活動などを担い、後者は当日のプログラム開発などを担当する。このようにプロジェクトチームに参加する大学院生は、活動を通じてプロジェクトに必要なマネジメントスキルやコミュニケーションスキルなどを身につけ、対人援助の組織的遂行に必要な能力のキャリア・アップを図っている。（文責：乾）

文献

毛丹青『にっぽん虫の眼紀行－中国人青年が見た「日本の心」』文春文庫、2001.11
村上春樹『海辺のカフカ』新潮社、2002. 9
古賀茂明『官僚の責任』PHP 新書、2011. 7

※当発表は、立命館大学大学院応用人間科学研究科の院生によるCDFプロジェクト企画の中間報告である。